

大学生における「浮気」の3F要因：宗教、友人、家族の影響

小島 宏 (早稲田大学)

最近の各種調査により成人（特にミレニアル世代）の一部で特定のパートナー以外との浮気（casual sex）が比較的頻繁に行われていることが見出されている（e.g., Konishi et al. 2022）。五十嵐・迫田（2023）も同様な調査結果を示した上で、関連要因の分析により結婚前の浮気経験が結婚後の不倫と非常に強い関連をもつことを見出したため、「第7回青少年の性行動全国調査」のマイクロデータにより彼氏・彼女がいる高校生・大学生が性交渉をしている相手が1人か複数かを検討し、性に関する情報を友人から得ているとより浮気をしやすいことを見出している。それを確認するため、本年度の日本人口学会大会報告（2023）では2000年に全国各地の大学で実施された「日欧性行動・意識・価値観比較調査」（有効票数980）のマイクロデータを用いた3項ロジット分析（付き合っている相手がいる者で「浮気」あり vs 付き合っている相手がいる者で「浮気なし」vs 性交経験なしを従属変数）により、ミレニアル世代先頭の大学生時代の「浮気」（付き合っている相手以外との性交渉）経験の関連要因を探った。2021年度の本学会大会報告（小島 2021）で初交タイミング（年齢）の関連要因のCox回帰分析を行った際に用いた宗教性意識を中心とするモデルを拡張して関係性意識を追加したものを用いた。「16~18歳の時に友人とオープンに性の話をしなかった」の影響を見た結果、五十嵐・迫田（2023）の分析結果は「性交経験なし」と対比した場合の「浮気」の場合と同様だが、「浮気なし」と対比した場合の「浮気」には当てはまらず、「浮気」というよりも性交経験に対する友人との性的話ありの効果拾っている可能性があることが見出された。しかし、このモデルは従属変数が異なるほか、事後の正当化を含む可能性がある意識要因が多いし、性行動と密接に関連するような調査時点の行動要因も多いため、それらの項目を外すと異なる結果が得られる可能性がある。

そこで、本報告では本的人口学的属性に若干の宗教（faith）、友人（friends）、家族（family）に関する状態・行動（中高生時代を中心）を独立変数に加えたモデルを分析した。男女総数については宗教変数の有意な効果が見られず、友人変数のうちで「14~15歳の時に友人とオープンに性の話をしなかった」は「浮気」の有無にかかわらず性交経験に対する負の効果があり、「16~18歳の時の友人が男女半々」に正の効果があるが、いずれも「浮気」の有無についての有意な効果は見られなかった。しかし、「16~18歳の時に喫煙しなかった」は性交経験に対する負の効果があるほか、「浮気」にも負の効果があった。家族（世帯・家計）変数のうち、「週末親族同居も」同様だったが、「休み中の親族同居」は浮気なしの性交経験のみに負の効果があり、「浮気なし」と対比した場合の「浮気」に正の効果があった。「週15時間以上のパート」は「性交経験なし」と「浮気なし」のいずれと対比した場合も正の効果があるが、「たまの単発の仕事」は「浮気なし」の性交経験のみに負の効果があった。

男女別にみると、男性のみで宗教変数に有意の効果がある場合があった。男性では「11~13歳の時の宗教行事参加経験」には有意な効果がないが、「現在の宗教行事参加経験」には「性交経験なし」と「浮気なし」のいずれと対比した場合も「浮気」に正の効果があった。また、「13歳当時の父親の礼拝参加」には「浮気なし」の性交経験のみに正の効果があった。他方、男性では友人変数のうちで「14~15歳の時に友人とオープンに性の話をしなかった」は「浮気なし」の性交経験に対する負の効果があり、女性では「性交経験なし」と「浮気なし」のいずれと対比した場合も「浮気」に正の効果があった。したがって、男女総数について見られた「14~15歳の時に友人とオープンに性の話をしなかった」の効果は、男性における「性交経験なし」と対比した場合の「浮気なし」に対する効果と、それとは別個の女性における「性交経験なし」と「浮気なし」と対比した場合の「浮気」に対する効果が一緒になったもののように見受けられる。なお、報告の際には異なる従属変数の分析結果も示す。

文献：

五十嵐彰・迫田さやか（2023）『不倫——実証分析が示す全貌』中公新書。

小島宏（2021）「大学生の初交タイミングと健康、スピリチュアリティ、宗教」第31回日本家族社会学会大会、オンライン、（2021.9.4）。

小島宏（2023）「20世紀末の大学生における『浮気』の関連要因」日本人口学会第75回大会、南山大学（2023.6.10）。

Konishi, S., Y. Moriki, F. Kariya and M. Akagawa（2022）”Casual Sex and Sexlessness in Japan,” *Sexes*, 3: 254-266.

*本研究は科研費基盤(C)（一般）20K00079の助成を受けたものである。